

自覺後
上

115
109
1



肥前 太白老人著

自覺談

全部二冊

書林

大阪心齋橋通博勞町

岡田羣玉堂梓

自覺談題辭

田城村山翁著自覺談一篇、囑吾友草楙
 芳謁余一言、余猶記昔年問翁於其村居、
 茅茨清楚、圖書滿屋、意澹然、一韻士也、今
 閱斯編、憂世之意、恤民之策、隱然如見、蓋
 有所抱負而隱于農者歟、昔年匆忙、不及

門 109
號 109
卷 1



即其底蘊、為可深憾、爾後余多在東都、深
厭土俗、奢靡、人物狡獪之甚、及歸鄉里、除
上局外、每親農圃、接漁樵、頗外形骸、然治
下之俗、凜淳、變素、日甚、一日稍覺、可厭、猶
在東都時、於是憶如翁之村居之樂、必久
而不厭、安得與翁坐此而商確、斯編之所

言乎、姑書此而還之、

天保甲午榴夏

榮府

古賀燾

撰

天啓甲子秋夏
 自覺齋主人
 譚話巨日多中意
 者注來頗熟大抵今時讀書者役意
 不出訓詁攷證之間古人要旨邈不聞
 心又何求有裨益於己乎去此輩開口
 論詰殊聒人耳余每閉戶避之求
 若翁者不易得矣近允仲寄示翁

題言

余寓田代。識太白翁。譚話巨日。多中意
 者。注來頗熟。大抵今時讀書者。役意
 不出訓詁攷證之間。古人要旨。邈不聞
 心。又何求有裨益於己乎。去此輩。開口
 論詰。殊聒人耳。余每閉戶。避之。求
 若翁者。不易得矣。近允仲。寄示翁

訪其自覺說。吁嗟翁之矣。對其書
猶眩其久也。長日無事。柴行半
明。恬淨。凡愁者。繙之。窈渺之旨。恬
澹之味。愈嚼而愈不盡。願以未可與
今時書生言也。戊申孟夏。豐後
廣瀨。建。接筆於遠思樓。

行人阿波柴筆書



自述

余力家世々農ヲ業トス。耒耜ノ暇。父許スニ書ヲ
讀ム。一ヲ以スト云。凡庸才能ク達セス。中歳ヨリ
仕途ニアリテ。終ニ志ヲ成ス。一十シ。又老後諸先
生ニ接シ。質問メ益ヲ請ント。謀ル時ハ。適ニ病ア
リテ。門下ニ趨ル。一ヲ得ス。命ノ所在ト云。凡遺憾
豈少十カラシヤ。頃口荒木吉次來リ訪フ。語次此
ニ及フ。吉次曰。翁ノ平素見ル所ヲ蒐録シ。之ヲ諸

君子ニ贈リ、益ヲ請ハ、如何シ、吾レ翁ノ夕メニ
周旋セント云、因テ筆ヲ求テ一冊子ヲ成スノミ、
伏テ請、諸君子余カ為ニ寸陰ヲ惜スシテ、一辭ノ
判ヲ賜ハ、素志足り又ヘシ、又何ノ幸カ加之、
天保二年辛卯秋八月 太白山叟村山漢

自覺談卷之上

肥前田代 太白老人著 男村山一允仲校

魚ハ水ニ住テ水ノ恩ヲ知ラス、人ハ太平ノ世ニ
住テ太平ノ恩ヲ知ラス、日日親戚朋友ト共ニ、仁
澤ノ中ニ周旋シ、各其業ヲ樂ム、恰モ魚ノ流レ
ニ游カ如シ、慶ヘキノ至ナリ、凡物ノ至大ナルハ、
却テ見難シトス、カ、ル仁恩ノ厚キ、朝夕忘ルマ

シキトソ覺フ、

天地生生ノ徳ヲ成シテ萬民ヲ養フ、萬民各ソノ
職業ノ功ヲ成シテ、君父ニ事フ、即チ是天ニ事フ
ル道十ルヘシ、天道適々凶ヲ降セルハ、吾ヲ警ム
ル所以トソ覺フ、

人トシテ誰カ父母無ラン、父母アリテ、ヨク孝養
セサランヤ、孝道ノ訓ヘ洋々トシテ聖典ニ詳カ
ナリ、吾何ヲカ言ン、畢竟唯親ノ志ヲ養ヒ、旦暮已

カ行フ所ヲ見テ安心セシムルトニ在リ、平天下
ノ大業モ、此ヲ出サルヘシトソ覺フ、

孝悌ノ名、多少貧賤無學ノ人ニアリ、富貴ノ家、才
俊ノ士ニ、聞テ鮮キハ何ゾ、行程ノ近ニハ、却テ日
ヲ暮スカ如シ、又脚下ノ健十ルヲ恃ム故トソ覺
フ、

親ニ事ルハ、明日ヲ待ヘカラス、明日ヲ待ヨリ、今
日ヲ怠ル心自然ト生スルナリ、人ノ子トシテ、誰

力不孝ノ心ア_レルヘキ、思フヘキヲ思ハサルノ過
千トフ覺フ_レ、
吉次曰、昌言、敬服敬服、吾家老父年過耳順、以平
生強健、漫然延志_ヲ於來年、欠些孝思、今茲仲秋、十
五日夜、暴病、脉絶舌枯、片刻之間、殆乎不起、舉家
驚走、號泣叫_レ天、數時、當_レ此時、遺憾切骨、深自責訟_ス
於平昔者萬々、幸而天又假_ス之餘年、頃者稍復舊
則始知壯健不可恃、明日不可期、孜孜從事焉、今

玩味此言、意會最切、嗟乎他人有心、吾忖度_ス之、其
先生之謂乎、吉雖不肖、終身事斯語、
珮川曰、老婆心切、

淡窓曰、余今日ヨリ此語ヲ服膺スヘシ、
慈ハ親ノ誠ナリ、孝子ヲ得テハ其愛イヨク篤カ
ルヘシ、國政ハ君ノ重任ニシテ、忠臣ヲ待モノ十
レハ、ソノ寵イヨク深カルヘシ、風邪ハ暖夜ニ入
易シ、臣子タル者ハ、寵ト愛トヲ恃ミ、敬ノ一字ヲ

俊シニ
任シニ
值チ

欠クマシキコトソ覺フ
孝子頑父ニ值テ、徳イヨク義十リ、頑父孝子ヲ得
テ不徳モ亦義十ルニ至ル、堂傾テ經讀ミ難シト
ハ、愚僧ノ言トソ覺フ、

淡窓曰、至言十リ、父子ノ際ニ限ラス、萬事皆此
理十リ、

ソノ徳別ニ聞ヘ十シト云凡、一郷孝ヲ稱スル人
ハ、余往テ見ミエント欲ス、イカ十ル徳ノ聞ヘア

リ凡、孝養ノ疎十ル人ハ、未夕信スヘカラサルヲ
覺フ、

父母ノ筆跡アル物、亦愛翫セル諸品ヲ、没後敬重
スル人ハ、必ス後榮アルヲ覺フ、

淡窓曰、余モ亦數其人ヲ見タリ、
箕嘗曰、薰然醉人

人富饒十レハ、必ス父母ノ墓碑ヲ高大ニス、追孝
ノ心ニ於テ然ルヘキ事十リ、縦ヒ誠ヨリ出ズト

云氏、義事ト云ヘシ、唯高大ニ過ル者ハ遠猷十キニ
ニ似タリ、宜ク國制ニ隨ヘキヲ十リ、凡ソ物盛衰
アルハ、天ノ道十リ、若シ一旦家衰ヘ、子孫ヲシテ、
繼ク_一アタハサラシメハ、遺憾少十カラシトソ
覺フ、

同宗ノ家、分支遠ト云氏、祖先ヨリ見ル寸ハ、同一
十リ、人新婚ノ家ニ親シテ、舊宗ノ家ヲ忘ルヘカ
ラス、姻家ノ親キハ背キ易ク、宗家ノ疎十ルハ離

レカタシ、故ニ大事ヲ談スルニ、慮ル所差アルヘ
シトソ覺フ、

判九曰、歛襟_テ讀_ラ之_ヲ、

旭莊曰、前漢ノ天子、外戚ヲ親ミシヨリ、王氏天
下ヲ奪ニ至ル、其時義兵ヲ舉シ人ハ、皆劉姓十
リ、是其明徴十リ、
箕箒曰、今時薄俗頂上一針、

古キ字紙ヲ重ニシ、麤畧ニセサル人ハ、必ス名子

支翫
ハカ
ク
ル

鹿巖
シ
カ

鹿巖
シ
カ

ヲ生スルコトヲ聞久、字紙ハ猶漉返スヘシ、古筆ハ
竟ニ塵土ニ歸ス、慎ムヘキコトヲ覺フ、余頃口自
他ノ為ニ、退筆塚ヲ築ント思フハ是故ナリ、唐ノ
懷素カ筆塚トハ、事同フシテ意異ナリ、昔隱居
孝ノ名アル人モ、妻子ヲ養ヒ、年四十ヲ過テ、始テ
其孝ヲ稱スヘシトソ覺フ、

大堤モ蟻穴ヨリ壞ルト云リ、凡ソ國家ノ大事モ、
多ク枕席ノ鄙言ヨリ生スルコト有トソ覺フ、

箕箒曰、慎言之誠、無大ホカ於此ヨリ矣、

公事ニ服シテ、其中心ヲ盡シ、旦夕怠ルコトナキハ、
己カ天職ニ供スル所以ナリ、一概ニ忠トノミ云
ヘカラサルヲ覺フ、

政事ヲ論セハ、先ツ國ノ風俗ヲ論スヘシ、風俗ハ
國ノ精氣ナリ、政令ハ治療ナリ、國適タマニ變故アル
ハ、外邪ノ冒セルナリ、精氣ノ盛ナル寸ハ、諸邪ノ
冒セリ、氏猶治療アルヘシ、唯風俗ノ破レタル、難

症ト云ヘシ、眼前ニ病無トイヘル、早ク驚クヘキ
トソ覺フ、

古ノ人ハ、法ヲ敬テ吏ヲ畏レス、今世ノ人ハ、吏ヲ
畏レテ法ヲ敬セス、農夫ノ樸實ト、商民ノ姦詐ト、
其分モ亦茲ニ在トソ覺フ、

人ヲ官ニ擇フ所以ニツ、徳ト才トナリ、篤行ノ人
ハ、魯鈍ニ似テ、迂遠ナルカ如シト云ル、之ヲメ上
ニ在ラシムレハ、下民遂ニ厚ニ歸ス、才子ハ聰敏

ニシテ、事ヲ成スニ宜ト云ル、譬ヘハ、利刀ノ如シ、
之ヲ把ルニ、其術ヲ得サレハ、怪我ヲ受ヘシ、國家
其才ニ眩ヒテ、漫リニ之ヲ用ヒハ、政事ノ敗レ、趾
ヲ廻ラサス、篤行魯才ニ及サルノ遠ヲ覺フ、

法令美ナリト云ル、久ヲ歷サレハ、庶民領得スル
鮮シ、或ハ時弊ヲ救フトテ、屢々新令ヲ下ス寸
ハ、愚民狼狽シテ、未タ新令ニ熟スルニ及ハス、先
所知ノ舊令ヲ忘ル、ニ至ル、又姦詐ノ徒、例ノ三

日法度ト悔ル心ヲ生スルハ、國ノ耻トソ覺フ、
法ハ天下ノ公器ニシテ、人性ニ基シ建ル所ナリ、
モシ慘刻緩慢、己カ意ニ任スル寸ハ、吏家ノ私物
ト為ルヲ覺フ、

珮川曰、語々吏人之針砭、
公事ヲ以テ、私怨ニ報スルハ、素ヨリ惡シ、公事
ヲ以テ、私恩ニ報スルモ、亦善カラシトソ覺フ、
平生服藥保養シテ壯健ナラサルハ、真ノ虚弱ノ

人ナリ、若過淫縱酒シテ、自ラ病ヲ招クハ、是災害
ヲ好メル人ト言ヘシ、之ヲ推テ論セハ、國ノ盛衰、
家ノ貧富モ、復然ルヘシ、世ニ真ノ困窮ノ國、真ノ
貧乏ノ家ハ、稀ナルヘシトソ覺フ、

凡ソ事周詳明察ニシテ、其行フ所ハ、必シク寛十
ルヲ要トス、或人ノ論ニ、摺小木モテ、重筥ノ味噌
ヲ摺カ如ナルヘシト云リ、此ヲ家事ニ推展、亦然
ルヘキヲ覺フ、

淡窓曰、居敬而行、簡ノ義、即是十リ、周茂叔モ、精
密嚴怒ノ説アリ、

或莊屋ノ語ニ、一村ノ大事ヲ計ル、神祠ニ於スル
ニ宜ト云リ、國ノ大事ハ、廟ニ於テ謀ルノ意十リ、
一家ノ大事モ、復祖牌ノ前ニ於スヘシトソ覺フ、
箕箒曰、含淳朴之氣、

事ヲ整テ整リ難キ寸ハ、私ニ結ホル、所有ヲ先
ツ舐ク搜リ得ルヘシ、猶鑿者ノ病因ヲ察シテ、配

劑スルカ如シトソ覺フ、
人主ノ微笑ハ、響キ雷ノ如シ、有司ノ私語ハ、響キ
鐘ノ如シト覺フ、

珮川曰、警策、

有司事ニ處スル嚴十ラサレハ、人侮慢ノ心ヲ生
ス、令ノ行ハレサル、言ノ達セサルトコロ、亦隨テ
是ヲ罰ス、コレタ、人ヲ毀フト云ヘキヲ覺フ、
今世雜史盛ニ行レ、復讎ノ美、或ハ桑間ノ褻行十

ト、巧ニ粧飾シ、亦形モ無キ事ヲ偽作シ、種々奇怪
ヲ交ヘタル、舉テ數フヘカラス、是澆季ノ風ナ
ルヘシ、徒ラニ天下情夫ノ目ヲ喜ハシメ、姦詐汚行
ノ媒トナリナントソ覺フ

箕箒曰、不啻我邦而已、海外亦然、

己力成シ得ヘキヲ知テ為シ、己力成シ得ヘカラ
サルヲ知テ為サルハ、自知ノ明ト云ヘシ、凡ソ官
ニ居テ職ヲ務メ、家ニ居テ産ヲ為ス、自知ノ明十

キ人ハ、業ヲ破テ必セリトソ覺フ、

一雄士アリ、今世ノ武士ヲ目シテ活刀架ト云リ、
今世學問ニ志セル人、活字書ノ名ヲ得ニコソ、口
惜キ業トソ覺フ、

技藝ノ拙キハ、耻ヘキニ非ス、有道ノ人、必シモ藝
ニ長スルニ非ス、藝ニ長スル人、必シモ道ヲ知ル
ニ非ス、交接ノ際、拙藝モ亦樂ミ多シ、絶藝ノ人ハ、
争心收ラス、却テ苦慮多シトソ覺フ、

淡窓曰拙藝多樂、巧藝多苦、至確ノ言十リ、藝ヲ
餘業ニスルト、生業ニスルト、亦然リ、世ノ藝ニ
長スル者、動スレハ、本業ヲ改テ藝ヲ業トス、是
樂ヲ捨テ苦ニ入ル十リ、惜ムヘシ、

近程ヲ計ルニ遠キヲ以シ、歸客ヲ待ニ遅キヲ以
シ、易事ヲ計ルニ難キヲ以シ、輕病ヲ計ルニ重キ
ヲ以スレハ、圖ラス意外ニ出ル幸ヲ得ヘシ、凡ソ
事皆斯ノ如シ、是己カ心ヲ以テ、己カ心ヲ喜ハシ

ムルノ一奇策トソ覺ス

徳ヲ以テ人ヲ使フハ、利ヲ以テ人ヲ使フノ便用
ニシカス、サレト、徳ノ人ヲ醉シムルハ、博多練酒
ノ如シ、終日ニシテ醒メス、利ノ人ヲ醉ハシムル
ハ、灰酒ノ如シ、盃ヲ納レハ、即時ニ醒ルヲ覺ス

珮川曰、皞々驩虞之別、

箕箒曰、徳與利之形、説得好、

官ニ居テ少シク功ヲ建テ、大賞有ニテヲ待テ、

人ニ交テ、少シク物ヲ贈リテ、大報アラシムヲ待
テ、報賞己カ心ニ滿サレハ、必ス忿懣ス、過キト云
ヘシ、功ヲ建ルハ、仕官ノ分ナリ、物ヲ贈ルハ、交友
ノ禮ナリ、何ソ報賞ヲ待ンヤ、是自己ノ意ヲ以テ、
一種忿懣ノ地ヲ構ヘ成セリトソ覺フ。
貧家ノ婦ノ衣服ニ於ケル、少シク破ル、寸ハ、隨
テ縫綴シ、脩補シ、晨夕怠ル、十久、竟ニ大破ニ至
ラザラシム、人誰カ過キカラニ、能ク親戚朋友

ノ規箴ニ從ハ、恐クハ大過十カラニ、即今人情
ヤ、輕薄、真ノ交友ノ得カタキヲ覺フ、真ノ規箴
ノ得カタキヲ憂フ、

判九曰、千古感慨、

箕嘗曰、無、鄉、不然矣、

圍碁ノ、我ヨリ勝レル人ニ對スル寸ハ、常ニ精
思ノ足ラサルヲ憂テ、一層ノ工夫ヲ加ントス、劣
レル人ニハ、覺ヘス、侮慢ノ心ヲ生シ、放肆邪侈セ

サル一十シ、小技スラ猶斯ノ如シ、况ヤ事業ヲヤ、
旭莊曰、僕碁ヲ好メリ、常ニ此病アリ、因テ萬事
敬ノ一字ヲ欠一ヲ知ル、
圍碁ノ教ニ、人ニ勝ント打一十カレ、負マシト打
ヘシト一家業モ亦然リ、父母ノ家ヲ毀レ敗ラシ
ト思フヘシ、猥リニ富ヲ求ル寸ハ、家必敗ル、ト
ソ覺ス、

吉次曰、寔興家翁之言、非今世輕薄才子所知也、

珮川曰、技可以進于道、

一家ノ治ラサルハ、己カ罪ト知レルハ、賢主人ナ
リ、日夜家事ヲ執リ、身ノ行ヲ慎マサレハ、夫人名
ヲ汚スト知レルハ、貞婦人ナリ、事ヲ大切ニシ、能
ク主人ノ指揮ニ從フ一ヲ知レルハ、良婢ナリ、是
ヲ治國ノ上ニ推スレ亦然ルヘキヲ覺ス、
家ノ産業ヲナスハ、大桶ニ水ヲ貯ルカ如シ、主人
毎日怠慢一十ク水ヲ汲入ル、寸ハ、滿ズト云一十

シ、主婦節メ之ヲ用ヒテ、能ク其隙滴ヲ防ク時ハ、一滴ノ遺失十シ、是能ク産ヲ治ルノ譬ナリ、主人水ヲ汲テ終日スル、遺漏スルヲ晝夜ト十クニハ、主人イカテカ及ヘキヤ、是ヲ國事ニ推スニ、邑入ハ限り有モノナリ、費用ハ限り無キモノナリ、限り有ノ邑入ヲ以テ、限り無キ費用ヲ償ントスルイカテカ能ク之ニ供センヤ、用ヒテ足ラサレハ、亦之ヲ民ニ取ル、コレ節ヲ制シ、用ヲ慎ムノ道ニ

アラシトソ覺フ、

吉次曰、古人云、譬欲易入、此言可諭頑婦之耳、可

説王侯之前、

余嘗テ舊友ニ謂テ曰、余書畫ヲ愛スレハ、名書竒畫自ラ集リテ、今ヤ一篋ニ盈テリ、財貨ニ於テハ然ラス、生來是ヲ好トイヘ、凡終ニ至ルヲ十シ、如何之友人曰、深ク愛セハ必至ラン、吾足下ノ愛セザルヲ知ル、竊ニ足下ヲ見ルニ、一金ヲ得ハ斯ク

セシ、十金ヲ得ハ斯クセントテ、未夕手ニ收メ又
前ヨリ身ヲ離シ他ニ出サントテ計ル、是財貨ヲ
失ハシ所以ヲ計ルナリ、愛スルニ非ス、深ク之ヲ
惡ムト云ヘシ、終身求ム所、何ノ至ルコトアラシ、吾
未夕一日モ愛妾ヲ人ニ假スコトヲ好メル者ヲ聞
スト云リ、余カ口遂ニ開カス、

人富貴ヲ求ルニ急ナル、神ニ祈リ佛ニ禱リ、惟日
モ足ラス、猶甚シキハ、野狐ニ詣ヒ、庭中ニ祠堂ヲ

建テ、日夜恭敬拜祝シ、懇請シテ止サルニ至ル、憐
ムヘシ、諺ニ、急カハ廻レト云リ、竟ニ自修ルノ近
道ナルヲ知ラス、愚ノ至リトソ覺フ、

凡ソ業ハ、奮激ニ成ルヲ覺フ、

吉次曰、余曾謂、窮、一字興身之大根元、正與憤字
隣、

鐵ハ百鍊ヲ經テ良劍ノ名アリ、人ハ萬苦ヲ出テ
テ賢才ノ稱アリトソ覺フ、

一榮ニハ必一衰アルヲ思ヒ、一窮ニハ必一達アルヲ思ヒ、深ク後ヲ慮ルヲ明ト言ヘキヲ覺ス、小人富貴ノ地ニアルヤ、必ス人ニ驕リ物ニ奢ル、窮艱ノ地ニアルヤ、必ス忿怒諂諛言フヘカラサルニ至ル、君子ハ富貴ノ地ニモ、窮難ノ地ニモ、自ラ修メ、吾カ樂ム所ヲ樂シテ、余夏日蠅ノ繚締ニカ、ルヲ見ルニ、量ラス此殃ニ遇ヘリト思ヘル様ニテ、驚カス懼レス、自若トシテ天命ニ安ンス

ルカ如キハ、亦徐々トシテ脱スルヲ得テ、飛翻シ去ル、是蠅中ノ君子ナル者ナリ、或ハ羽翼ヲ振ヒ飛冲セント、狼狽動揺スルハ、四支繚ニマフレテ、終ニ脱スルヲ得スシテ死ス、是蠅中ノ小人ナル者トソ覺ス

判九曰、余係陶山之事、廢居多年、覺此章雖戲言、出於誠、

珮川曰、觀微蟲寓至理、何等慧眼、

余弱冠ノ時親族病急ナルヲ聞テ、行テ問ントス、
途中ニ河アリ、雨水大ニ漲ル、余涉ラントスルニ、
歩々益深ケレハ、渉ルノ易カラサルヲ慮リ、且
思ヒ出スヲ有テ、乃千歩ヲ返シ、河ノ邊ニ立テ、濡
レタル衣服ヲシホル、時ニ一壯夫向ノ岸ヨリ來
リ涉ラントス、余遙ニ叫テ曰、水急ナリ、容易ニ涉
ルヲ勿レト、壯夫聞サルマ子シテ涉ル、竟ニ溺テ
流ル、一丁ハカリ、余聲ヲ揚テ農夫二人ヲ呼

ヒ、急ニ來リ救ハシメテ、漸ク助命スルヲ得タ
リ、其人余ニ謝シ、且救ヒシ者ニ、錢一緡ヲ與フ、農
夫モ亦喜ヒ、遂ニ余ヲ救テ涉ラシム、二人乃千余
カ臀ヲ肩ニシ、四手余カ兩足ヲ執ル、余カ兩手ニ
人ノ頭ニ據リ、安然トシテ涉リ岸ニ上ル、余モ小
錢ヲ出シ謝スレト、固辭シテ受ス、今ヲ去ルヲ、四
十餘年、事ニ觸レテ、シハ々思ヘ出スヲ有キ、カノ
商家ノ損失ニ遇カ如キ、急ニ是ヲ償ントテ、自ラ

省ミス、強テ事ヲ行フ寸ハ、却テ家ヲ亡スニ至ル、
憐ムヘシ、早ク事ノ成シ難キヲ知ハ、深ク慮リ、自
ラ修ムヘシ、思ノ外ニ、天幸アルヘシトソ覺フ、
吉次曰、商賈敗家産者多不出此技倆之外、余亦
嘗踏是敗跡、顛沛殆滅身、獨悔當時不聞此言、
筭盤ノ人ヲ惑ハス、狐狸ヨリモ甚シ、國家ノ為ニ
トテ、新ニ利ヲ起スモノ、敗ヲ取ル所以トソ覺
ス、

判九曰、讀至此章、慚汗殆乎一年、
人ノ一言一行、初ヲ慎ムヘシ、初ヲ慎ノ心ハ、後ヲ
慮ル心ヨリ生スルヲ覺フ、

兼好法師徒然草ニ曰、為ヤセマシ、為スヤアラマ
シト思ヘル事ハ、大様ニ為ヌカヨキナリト云リ、
余モ亦云、言ヤセマシ、言ハスヤアラマシト思ヘ
ルナハ、大様ハ言ハヌカヨキトソ覺フ、

旭莊曰、僕又云、食テモ好シ、不食テモ好キ食ハ、

食ハヌカヨシ、

平生好テ人ノ善ヲ掲ルモノハ、己モ亦善ヲ行フヘキ人トソ覺フ、

好テ人ノ惡ヲ揚ルモノハ、己レモ亦惡ヲ行フヘキ人トソ覺フ、

人ノ短十ル處ヲ捨テ、長スル處ヲ取ルハ、善友鮮カラサル所以十リ、人誰カ一長一短十カラシ、長ヲ見ルハ、短ヲ見ルヨリ難キヲ覺フ、

善ヲ責ルハ、朋友ノ道十リ、然レモ、己ヲ信スルノ深淺ヲ察シテ、誠ヲ盡スヘシトソ覺フ、

凡ソ血氣アル人ハ、必争心アリ、漫ニ規箴忠告スヘカラス、稍々争氣ノ収ルヲ待ヘシトソ覺フ、

大量アル人ハ、喜怒少ク、言モ亦寡シ、能ク物ヲ容レテ涵養スレハ十リ、喜怒ノ情動キ易キヲ察シテ、己カ度量ノ小狭十ルヲ知ヘシトソ覺フ、

判九曰、雖齋論、猶鶯語、每聽悅シム、

人吾ニ無理ノ言アルハ、吾ヨリ劣レル人ト知ル
ヘシ、敵手トシテ忿懣スルハ、己レ高カラサレハ
ナリ、又君ト親トハ、無理アルモノト領得スルハ、
臣子ノ分ナリ、唯悉々トシテ姦ニ格ラサラシメ
サルヲ的トスヘシトソ覺フ、

渠レ吾ニ無禮アルハ、渠カ罪ナリ、何ソ吾ニ在ニ
ヤ、吾從テ之ヲ怒リ謗ル寸ハ、咎又吾ニ歸シテ、渠
カ罪ヲ買フノ道トソ覺フ、

不平ノ事アリテ、適々怒氣ヲ生スル、強テ制セニ
トスルハ非ナリ、譬ハ、夜眠ラス、眠ヲ欲スレハ、イ
ヨク醒ム、爰ニ一度念ヲ他事ニ轉化スル寸ハ、覺
ヘス、熟睡ニ入ル、此ヲ推テ、其妙用ヲ知ヘシトソ
覺フ、

珮川曰、亦何假酒烟之力ヲ、

淡窓曰、古人病中移心ノ法アリ、今又怒中移心
ノ法ヲ得タリ、

打ル、人ハ安眠シ、打人ハ眠ラスト云リ、一時快
ニ乗シテ事ヲ行フ、必ス後悔アリトソ覺フ、
才偏ナル人ハ、識量ノ廣カラサルヲ覺フ、
度量狭ケレハ、事體ヲ見テ大十ラサルヲ覺フ、
才智アリトイヘ、一義氣十キ人ハ、大事ニ用ヒ
難シトソ覺フ、

勢利ノ入ヲ移シ易キ、水火ヨリモ甚シ、道ヲ信ス
ル丁ノ篤ニ非サレハ、大事ニ處シ難シトソ覺フ、
貪賤ニ戚々々ラサル人コソ、唯能ク富貴ニ蕩カ
サレサルヲ覺フ、

世ヲ希フハ惡シ、世ヲ嫌フハ又惡シ、其間ニ
趣アルヘシトソ覺フ、

農夫ハ無智十リ、故ニ無為十リ、故ニ無難十リ、故
ニ無病十リトソ覺フ、

一判九曰、俚談入妙、

淡窓曰、老子所謂虚其心、實其腹、弱其志、強其骨、

モ人、今世唯農夫コレニ當レリ、
一士人來テ余ヲ訪ヒ、席上詩ヲ贈ル、其書御家流
十リ、曰、吏事冗劇、未夕唐様ヲ學スト、余展翫シ、深
ク是ヲ感シ、又深ク心ニ耻ル處アリ、余晚年唐様
ノ書ヲ學テ、頗ル姿ヲ得タリトイヘ氏、未夕其意
ヲ得ス、言語ハ唯誠十ラシノミ、能ク人ヲ感動ス
ルヲ有トソ覺ス、

事ノ質十ルハ、又ヲ歷テ易^カラス、事ノ矜飾セルハ、
羨十リトイヘ氏、漸々見劣リセラル、ヲ覺ス、
矜飾ハ奢ヨリ生スル十リ、譬ハ鉢植ノ花木ノ如
シ、誰カ其羨ヲ賞翫セサラン、若シ數花滿盛セシ
ムル寸ハ、根抵ノ傷ミ、遠カラサルヘシトソ覺フ、
奢トハ、已カ限ニ過タルヲ云十リ、世ニ活錢死錢
ト云テアレハ、千金モ費トセス、又一錢モ費ト云
ヘシ、富家ノ子、幼少ヨリ、耳ニ規箴ノ言ヲ聞カス、
目ニ違忤ノ人ヲ見ス、イツマテモ、斯ク有ヘキト

思ヒ、徒ニ貨ヲ費シ、終ニ家衰ルニ至ル、後悔スト
モ及フヘケンヤ、諺ニ長者無三代ト云ル、口惜キ
事ナラスヤ、サレハ、有カ人、諸人ノ為ニ謀テ、格別
ノ事業ヲ興シ置カハ、自然ト天祐アリテ、永ク家
ヲ保キ、且子孫マテモ、何某ノ後裔ト呼レニハ、目
出タシトソ覺ス、

吉次曰、無限感慨、

金銀ハ公寶ナリ、暫ク假リテ私用ニ供スルナリ、

多ク假得タリトテ、人ニ驕リ、或ハ妄ニ吝嗇スル
ハ、世ニ惡マル、所以トソ覺フ、

珮川曰、梵云、有財餓鬼、

百石ノ舟ニ、十餘幅ノ帆ヲ揚ケ、大瀛ヲ渡ル、危ヒ
カト、人已カ分ヲ守ルヨリ安キハナシトソ覺フ、
分ニ安ニスル人ハ、葷食陋巷ニ在テモ、終身樂ム
處アリ、分ヲ知サレハ、富貴其身ニ至トイヘ氏、心
猶足ラスシテ、願望常ニ止ムナク、却テ禍ヲ招ク

道トソ覺フ、

衣服ハ宜ク吾分ニ應スヘシ、君子ノ粗服セル、其
徳光外ニ顯レ、薄紗ニ螢ヲ盛ルカ如シ、小人ノ美
服セル、其臭氣外ニ顯レ、錦繡ニ糞ヲ包カ如シト
ソ覺フ、

遊惰日ヲ送ル、必ス淫欲ノ情動キ易シ、淫欲度ニ
過ル寸ハ、病ヲ生シ、平生ノ志モ遂ケ難シ、哀ムヘ
キノ至リ十リ、凡ソ人此欲最モ戒メ難トス、朋友

モ復此諫メ最モ發シ難トス、或ハ日夜藝業ヲ勤
テ怠慢十久、身體勞疲スル寸ハ、夜必熟眠メ、淫欲
ノ情動クヲ十シ、此レ戒メ慎ムノ妙用ト云リ、豈
少年ノミナランヤ、初老ヲ過テハ、精氣ヤ、衰耗
スレハ、愈マス々堅カルヘシ、宜ク分ヲ計テ、身ヲ
勞スヘシ、農夫老ニ至ルマテ、身體堅固十ルハ、他
ノ故ニアラストソ覺フ、

珮川曰、蕃山先生亦有此論、

淡窓曰、卧テ眠ラサレハ、淫欲ヲ動カシ、又無用ノ思慮ヲ生ス、僧家不卧ノ行アリ、是モ欲ヲ制スルノ法ナリトソ、

或人門ノ間ヲ鍔ニテ包ミシニ、惡鬼手ヲ拍テ笑ケルトナリ、人能ク家ヲ富スコトヲ謀レ、永ク家ヲ保ツコトヲ計ラス、能ク子ヲ愛育スレ、ヨキ行アラシコトヲ計ラス、心ハ動物ナリ、早ク之カ爲ニ處置セサレハ、頓テ放埒生シ、夕トイ積玉堆金ス

氏、瓦石ニ異ナラス、然ノミナラス、却テ身ヲ毀フノ媒タルヘシトソ覺フ、

子ヲ育スルニ、本業ノ外、些ノ餘裕アルヘキコトナリ、少歳ソノ性質ヲ察テ、家ノ地位ニ宜シキ一藝ヲ許シ、學ハシムル寸ハ、心コレニ繫カレテ、邪辟ノ侵スヘキ間隙ナシ、中歳是ヲ以テ交接ノ具トシ、晩歳老心ヲ依托スルノ地トナスヘキヲ覺フ、藝ハ獨樂ムニ宜キヲ第一トス、老後ハ朋少久、又

出ルニ倦メハナリ、

淡窓曰、老年好テ家事ニ干預シ、動スレハ是非
ヲ生シ、子孫ノ累トナル者多シ、此理ニ達セザ
レハナリ、

旭莊曰、極理至論、古人ノ中ニテモ、陶朱公張子
房等ハ、本業ノ外、餘裕アル人ナリ、

主君ニ仕ヘテ、其恩ニ報セント思ヒ、祖先ニ奉シ
テ、其徳ニ酬ント思ハ、能ク家繼ノ子ヲ育シ、厚

ク學ハシムヘシ、平生節儉シテ資ヲ貯ヘ、出テ善
師良友ヲ求メシム、是古ノ道ナルヘシ、且能ク已
カ身ヲ修メ、業ヲ慎ミ、子ヲシテ父ニ則リ習ハシ
ム、是身ヲ以テ教ルノ道ナリ、乃チ父タル人ノ行
ト云ヘシ、慈愛ニ溺レ、嚴戒ナク、恣マ、ニ怠惰ナ
ラシムルハ、君父ノ恩徳ヲ慢ニスト云ヘキヲ覺
フ、又愛育シテ、己カ為ニセント思フハ、論スルニ
足ラス、

珮川曰、木本水源、

吾カ一身ハ輕シ、一家ハ重シト云ヘシ、譬ヘハ、扇ノ如シ、一身ノ要メ堅固十ラサレハ、一家ノ風遂ニ揚ラス、主人ノ一衣一食、其餘ノ小事タリ凡、皆一家ノ萬機ニ應スルモノ十レハ、慎ムヘキトソ覺フ、况ヤ一國ノ上ニ臨メル、影ノ形ニ從フカ如シ、響ノ聲ニ應スルカ如キヲヤ、

家ハ祖先ノ家十リ、己ハ一家監十リ、能ク務テ新

家監ヲ教育シ、恙ナク仕ヲ致スヘキト十リ、己カ身己カ子ト思ヘルハ、大ナル謬ナリ、己レ祖先ヨリ幾代ノ家監ニシテ、奉職無狀ナル寸ハ、其罰遠カラス、終ニ流浪シ、身ヲ置處十キニ至ル、畏ルヘキトソ覺フ、余壯歲ノ頃、俗例ニ從ヒ、正月十一日、帳ヲ整フ、家翁命シテ、帳ノ側ニ余カ名ヲ書セシメ、上ニ家監ノ字ヲ題セシム、以後竟ニ家事ヲ言ハサリシ、

淡窓曰、家監ノ二字、大警醒アリ、名言、

珮川曰、唐虞官^{ニスル}天下^ラ之遺訓、

敝邑ノ莊屋某語テ曰、人或ハ父祖ノ田宅ヲ賣ル者アリ、好事ナルカ、余曰、何ソ好事ナラン、止^レヲ得サレハナリ、某曰、吾ニ給田三十石アリ、窮スル寸ハ、是ヲ富家ニ質スレ^レ、富家モ容^レス、賣ルニ術ナケレハ、今ニ田米ヲ得^ル、初ノ如シ、貧乏爰ニ極^ルト云^レ、^レ、妻子一日モ凍餒ノ患アル^レナシ、

然^ラハ、田宅ヲ賣ルハ、豈好事ナラスヤト云^リ、余笑テ答ヘサレ^レ、^レ又^一道理ナルヘシトソ覺^フ、

判九曰、羨談、

人ノ齡廿五歳ヲ春トス、萬物萌震ノ節ナリ、宜ク志業ヲ興スヘシ、又廿五歳ヲ夏秋トス、成熟ノ節ナリ、專^ラ職ヲ務ムヘシ、又廿五歳ヲ冬トス、收藏ノ節ナリ、宜ク隱居シテ、餘生ヲ樂ムヘシトソ覺^フ、

余青年ニ當テ奇書ヲ得レハ、必ス抄寫ス、尤細書
ヲ好ム、今之ヲ展翫スルニ、眼力乏シク、見ルヲ
得ス、頗ル後悔アリトゾ覺フ、
小兒ト遊フ、宜ク兒氣アルヘシ、老人ト語ル、宜ク
老氣アルヘシトゾ覺フ、
青年常ニ老人ニ侍スル寸ハ、客氣自ラ收ル、今少
年ト遊フ、自ラ老氣ヲ忘ル、ヲ覺フ、
淡窓曰、余少年ノ時ヨリ、長者ニ陪侍スルヲ

好ム、矜氣自ラ退ク故ナリ、
少年ノ幸ハ、人ニ戒諭屈辱セラル、ニ在リ、老年
ノ患ハ、人ニ戒諭屈辱セラレサルニ在トゾ覺フ、
判九曰、徳言、

老後死ヲ畏ル、ハ、惑ヘルノ至ナリ、天命ニ一任
シテ、其間ニ優遊シ、吾樂ヲ樂ムヘシトゾ覺フ、
余年三十九ニシテ、國恩ヲ荷ヒ、農夫ヨリ擢ラレ、
田代府ノ小吏トナリ、老親ヲ養フコトヲ得タリ、素

ヨリ一善ノ身ニ修ルコト有コトナシ、何ヲ以テ此大
幸ヲ得タルヤ、熟念スルニ、前キニ、享保ノ凶年ニ
諸國皆飢ユ、筑前ヨリ彌八ト云モ人、年纔ニ十五
父母親戚餓死シ、獨リ依ル所ナク流離シ、食ヲ乞
テ、余カ家ニ來ル、餓テ且跛タリ、余カ祖父文右衛
門、乃チ父良佐ニ謀リ、養テ奴トス、其長スルニ及
テ、少ク田宅ヲ與ヘ、妻ヲ娶ラシメントス、彌八固
辭シテ曰、賤奴若シ恩惠ヲ得テ、妻子ヲ養ハ、或

ハ他心ヲ生シ、奉公ノ勤、今日ノ如クナラザルヲ
恐ルトテ、肯ハス、終ニ廡下一室ニ居ラシメ、田一
段ヲ作り取りトシ、私用ニ供セシム、余年九歳ノ
時、祖父文右衛門、中風ヲ病テ没ス、時ニ彌八モ亦
病牀ニ在リ、之ヲ聞テ哀慟シ、三日ニシテ死ス、又
寛政年中、豊後ノ窮民、食ヲ四方ニ乞テ、余カ里ニ
來リ病死ス、遺孤三五郎獨リ呱々トシテ泣キケ
ルヲ、余憐ミ携テ家ニ歸ル、父又養育シタリ、此ニ

因テ思フニ、余カ今日アル、偏ニ國恩ニ賴ルト云
氏、父祖積善ノ餘慶、余カ身ニ及ヘルヲ、感戴セサ
ランヤ、又平田府君ノ惠忘ルヘカラサルヲ覺ス
吉次曰、彌ハ亦羨奴也夫、下入冊子中、二不朽其名
魚ハヨク水ニ遊ヒ、鼈ハヨク淵ニ潜ミ、蝶ハヨク
花ニ睡ル、人反テ人間ニ遊戯スルヲ能ハサル者
多シ、數物我為ニ善キ師トソ覺フ、下田
能笑フモノハ花、能語ルモノハ鳥、善キ友トソ覺

フ、

曾テ除日ニ事アリテ出テ、市中ヲ過ルニ、男女逐
々營々、紛冗言フヘカラス、纔ニ山村ニ到レハ、男
ハ出テ麥ニ培ヒ、婦女ハ相迎ヘテ餅ヲ造リ茶ヲ
烹テ、俱ニ春ヲ待ツ、恰モ別世界ノ如シ、余平生堯
舜ノ民タランコトヲ願フ、寡欲ニシテ、分ニ安ニス
ル寸ハ、今モ堯舜ノ世十ルヘシトソ覺フ、

箕蓍曰、堯舜之心今猶在、此言豈徒然ト云、

覺言曰夫輪之心今歸於此言豈非
 也乎今之漢魏世十以八之亦不覺
 我入死之之亦不覺之寒暑之也亦
 意天無三卷之亦不覺之也亦不覺
 之也亦不覺之也亦不覺之也亦不覺
 之也亦不覺之也亦不覺之也亦不覺
 之也亦不覺之也亦不覺之也亦不覺
 之也亦不覺之也亦不覺之也亦不覺

自覺談卷之上終

明治五年十月十日
 神戶裝學街
 後生

